

OSFだより

第105号 2010(H22)年12月



発行・編集 財団法人岡本国際奨学交流財団 263-0023 千葉市稲毛区緑町1丁目19番11号 TEL043-248-8808 FAX043-238-4138
osf-midori1911@coda.ocn.ne.jp http://www.osf-family.com
OSF(Okamoto Scholarship Foundation)の活動案内 1、留学生宿舍の運営 2、留学生へ奨学金の支給 3、留学生の学習&人生相談・国際交流

就職内定率に思う

会長 岡本 正

来春の就職内定率が悪く、大きな社会問題になっている。先の見えない経済不況が、一日も早く改善されることを願っている。ただ、求人側は、学生の保守安定志向が強すぎるとも言っている。

学生の希望はそれなりに私も理解できる。銀行、大会社も倒産するほどの変化が激しい時代だ。安定率の高い就職先を目指す。無理もない。

しかし、そればかりだと、国家・社会は進歩しない。アメリカの一流大学の優等生は、自ら進んで、リスクを覚悟してベンチャービジネスを志すという。だからこそアメリカは過去百年に続いて更に将来も、世界一の地位を保ち続けるのではないか。

私はリビングストンの自筆の手紙と写真を持っている。もう20年も前に新宿の伊勢丹で、有名人の自筆文の即売会があった時買ったもの。

欧米では自分の尊敬する人の写真と自筆文をセットにして、机上に飾る習慣がある。

政治家、実業家、軍人、学者、芸術家、スポーツ人等、それぞれの分野の第一人者に限られる。みな多大なリスクを覚悟して、人類の前途を切り開いたチャレンジャーだ。

展示会で一番高価だったのは、ポーランドの物理学者キュリー夫人で、確か400万円だった。

キュリー夫人について私が解説する必要はないだろう。ノーベル物理学・化学の二つの賞をとった人で、ラジウムの発見者として有名だ。

伝記も出版され、映画にもなっている。夫婦共同の研究で、夫婦愛の模範とされている。

リビングストンは暗黒の大陸と言われたアフリカの内部に入り、今まで原住民しか知らなかったアフリカ内陸部を初めて明らかにした探検家。

私はその写真を机上に置いて、少しでも彼の勇氣とバイタリティに近づきたいと、心がけていた。この二人の辞書には保守と安定の字句はない。

日本郵船は世界トップクラスの船会社として、干艘近い大型船を世界中で運航している。

私も前に妻と百日間の世界一周の観光に参加した。船の幹部は少数の日本人だが、300名近い乗組員はすべて十数国の外国人で、一番多いのはフィリピン人。日本人は家を離れるのがいやで希望者が少ないという人だった。

更に現在日本の大手建築会社は、仕事の重点を国外に置いているが、海外勤務の希望者が少なくて困っているようだ。

千葉県の偉人伊能忠敬は200年前に欧米のレベルに負けない日本地図を全国測量して作った。しかも、50歳過ぎてからの勉学の結果だ。

重ねて言う。保守安定志向もよいが、そればかりだと国家社会は進歩しない。未知への挑戦が不可欠だ。

OSFには主として東アジアの留学生が多いが、みんな勇氣がありチャレンジ精神に富んでいて、私は常々敬服し、それに協力できることを光栄と考え喜んでいる。

一昨日も恒例の年末パーティーがあり、OBとその家族を含めて100名余りが参加した。OBの中には卒業後日本にとどまり、日本社会の重要メンバーとしての地位を開拓している人もいて、頼もしい。私も財団を作った甲斐があったと喜んでいる。

と、同時に日本人学生の元気がないのが心配だ。元気がないからこそ、就職率が過度に心配になるのだ。やる気さえあれば、何でもできる。

保守安定は油断すると退歩へ通じる。チャレンジ精神さえあれば、いずれかは、明るい未来が開ける。努力してほしいと心から念じている。

前千葉大学学長の古在豊樹先生のご本「幸せの種はきっと見つかる」を読んでみてください。参考になる。私も数冊持っている。希望者には差し上げる。

王 妍方（奨学生）

中国（遼寧省）

千葉大学 園芸学研究所 環境園芸学専攻



日本に来て一番感動したこと

いつの間にか日本での生活がもう2年経っています。日本に来て、初めて親から離れ一人で外国に暮らしています。楽しみや苦しみを色々と体験して、自分の成長と今後の発展にとって非常に良い経験になったと思っております。

日本に来てからも学校が生活の中心となり、本当の日本社会とふれあう機会が少ないことも分かっていますが、研究の日々に追われているので、自分の意識で動くのはなかなか難しいという状況です。しかし、2008年5月12日に中国四川省で発生した四川大地震が世間のことに無頓着である私を大きく刺激しました。日本での募金などの活動に参加し、日本の皆さんが我々に大きな勇気と支援をくださいました。地震の後、日本の救援隊が一番に被災地入りした救援隊だったことに私はとても感動しました。彼らの活躍によって我々被災の人々は勇気と団結の気持ちをいただくことができたとします。

その後、日本救援隊の皆さんが帰国することを聞き、ぜひ成田空港に迎えに行きたい気持ちがますます高まってきました。迎えに行く当日、自分の泣き崩れそうな気持ちを控えて空港で彼ら（我々の英雄）の現れるのを静かに待っていました。救援隊を乗せた便が到着したようで、我々も自然と列を作って、手の中で日本と中国の国旗や「中日友好」、「ありがとう」などと書いた横断幕を広げました。ついに彼らが着きました。疲れたような顔に優しい微笑みが浮かんでいました。

我々は花束を救援隊の皆さんにささげ、私は握手を求めました。大きい手が私を包み、「ありがとう」と私に言いました。私は緊張と感動の気持ちを抑えきれずに、迎えの人々の群れに逃げ込んでいました。そして、一所懸命国旗と横断幕を揺さぶりながら、隊員たちの顔を見て「お疲れ様でした。ありがとうございます」を声が届く限り周りの人を気にせず呼び続けました。隊員たちも「ありがとう」とうなずいてくださいました。それを見るとますます感情をコントロールできなくなり、涙も止まりませんでした。声が嘎れるまで救援隊の皆さんに感謝の気持ちを伝えたかったです。その後、隊員がいなくなると、NHKや朝日新聞の記者たちが泣き崩れる私にインタビューした時にも、「ありがとう」としか言えなかったです。こういう感動は深く心の中に刻まれて一生忘れはしないと思います。

中国のことわざで『危難之中見真情』があります。これは困った時に本心が見えるというように、中国が最も困難な時に、日本救援隊は援助の手を伸ばしてくれました。この援助は人道主義であり、日本国民の中国人に対する深い友情であり、日中友好の歴史に残ることは間違いありません。中国人は愛し恨む民族であり、恩を決して忘れない民族です。中国人はずっと『滴水之恩，当涌泉相報』一滴の水の恩も、湧き出る泉のように恩を返すと言う美德を伝えてきました。救援隊の皆さんが尽くした努力や苦勞などを中国の国民は決して忘れません。

劉 思堅（奨学生）

中国（大連市）

千葉大学 人文社会科学研究所 公共研究専攻



日本に来て一番感動したこと

私は劉思堅と申します。出身地は中国の大連です。今は千葉大学人文社会科学研究所の公共研究専攻修士1年生です。私が日本に来て一番感動したのは、大学院に入学したことです。

私は2008年10月、千葉大学法経学部の研究生として、日本に来ました。日本に来たばかりですけど、2009年4月の大学院修士課程の入学試験に挑みました。大学院入学試験は2009年1月です。その試験はかなり厳しい条件なので、私は11月から入学論文と入学試験の準備を始めました。その困っていたとき、私は学校の教授と友にいろいろと助けていただきました。あの時は本当に助かりました。二ヶ月経って、二万五千字の入学論文が出来て、無事に論文審査に合格しました。しかし、後には面接試験があります。その時、私の日本語はまだ慣れないので、話ができるかどうか不安でした。まだ未熟な日本語で、通じることが不安でいっぱいのまま、私は面接試験に挑みました。試験会場に入って、とても怖かったです。びっくりしたせい

か、鳥肌が立って、歯もがちがちになって、何も言葉が出ませんでした。でも、その不安はすぐなくなりました。教授たちはすごくやさしかったからです。面接する際、私分からない時はゆっくり話してくれました。そして、みんなは私の言っていることを理解するために一生懸命聞いてくれました。そんな気持ちに感動し、感謝し、とても貴重な体験をすると同時に、世界が身近に思えました。

その後にももらった合格通知だったので、涙が出るほど嬉しかったのを覚えています。私は大学院に合格したのですが、その日自転車を盗まれました。合格の代償と考えて諦めをつけました。そのことをアルバイトの店の先輩に言ったら、先輩はすぐ「私使わないチャリがあるからあげるね。」と言いました。このような人の優しさに触れられてとても良かったです。その思い出は今もまだ私を感動させています。

年忘れパーティ

12月11日、今年もたくさんの懐かしい顔がパーティーホテルに集まった。大阪や岩手など遠くから来てくれた方、毎年欠かさずに出席してくれる方、ありがとうございます。

また、来年もお会いしましょう！



この他にもたくさんのOBが家族で参加してくれました。



包那拉さん

華やかな明るい司会をありがとう！特に郭さんは去年に続き2回目でした。ごくろうさまでした！



「幸せなら手をたたこう」を各国バージョンで



今年も会館生、大活躍！ 傘おどり



韓国のイケメントリオ



最後はやはりこれです！
「OSFの歌」



トピックスTopics!

結婚・出産おめでとう

10月21日、高娜さん(H21 奨学生、中国)が結婚しました。お相手は中国の方だそうです。

10月26日、ナムジルマーさん(H11年奨学生、モンゴル)から連絡があり、8月に次男が誕生したとのこと。

お二人とも家族が増えてよかったですね。

～お幸せに！～

OB来団

11月30日、陳朝輝さん(H20 奨学生、中国)が日本出張中来団してくれた。天津の南海大学の先生で、日本文学の講義をしている。私たちが知らなかった日本人作家の魅力を熱く語ってくれた。

12月14日、景平さん(H5 会館生、中国)が北京から来日し、財団に寄ってくれた。北京の大学で先生をしている。OSFの大先輩だ。とても懐かしく話が尽きなかった。

おでんパーティー

11月、会館生・家族宿舎(10日)、奨学生(12日)の両日、おでんパーティーを実施。

論文などで忙しい時期ではあるが、温かいおでんで身も心も温まってくれたことを願う。



陳朝輝さんと



景平さんと

OSFの店 千葉大祭に

11月7日、千葉大祭に会館生の店を出店。温かい食べ物を出すことを心がけたので、現場で焼いたり揚げたり大変でした。OBや奨学生も多数応援にかけつけて全員参加で一日中声がかかるまで

がんばりました。

天気も私たちに味方してくれました。

みんな ごくろうさま!

